

平成20年京都市の合計特殊出生率

平成20年の京都市独自集計の合計特殊出生率を算出しましたので、ご紹介します。

○ はじめに

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女性の、年齢別出生率を合計したものです。

合計特殊出生率には、期間合計特殊出生率と、コーホート合計特殊出生率の2種類がありますが、ここでは、通常、年次比較や地域比較に用いられる、期間合計特殊出生率について紹介します。(期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率については、最終ページの「参考」をご覧ください。)

本市では、合計特殊出生率の算出に使用する基礎資料として、出生数は厚生労働省「人口動態調査(平成20年)」の母の年齢(5歳階級)別出生数、女性人口は住民基本台帳の年齢(5歳階級)別女性人口を用いています。

1 平成20年の合計特殊出生率(独自集計)

平成20年の京都市の合計特殊出生率は1.19で、前年と比べて0.05ポイント上昇しました。

出生数は今回増加に転じた一方で、女性人口は引き続き減少しているため、合計特殊出生率は平成13年以降で最も高くなりました。

表-1 合計特殊出生率の計算結果

母の年齢階級	出生数(人)		女性人口(人)		合計特殊出生率	
	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年	平成20年
合計	11,534	11,789	315,999	314,766	1.138718	1.190363
15~19歳	143	145	30,457	30,062	0.023476	0.024117
20~24歳	1,035	1,154	43,500	42,299	0.118966	0.136410
25~29歳	3,159	3,122	48,005	46,481	0.329028	0.335836
30~34歳	4,675	4,566	54,666	52,520	0.427597	0.434692
35~39歳	2,207	2,435	53,790	55,267	0.205150	0.220294
40~44歳	307	359	45,827	47,190	0.033496	0.038038
45~49歳	8	8	39,754	40,947	0.001006	0.000977

注)平成19年の出生数は14歳以下の1人を15歳から19歳に、平成20年の出生数は50歳以上の2人を45歳から49歳に、それぞれ含んでいます。

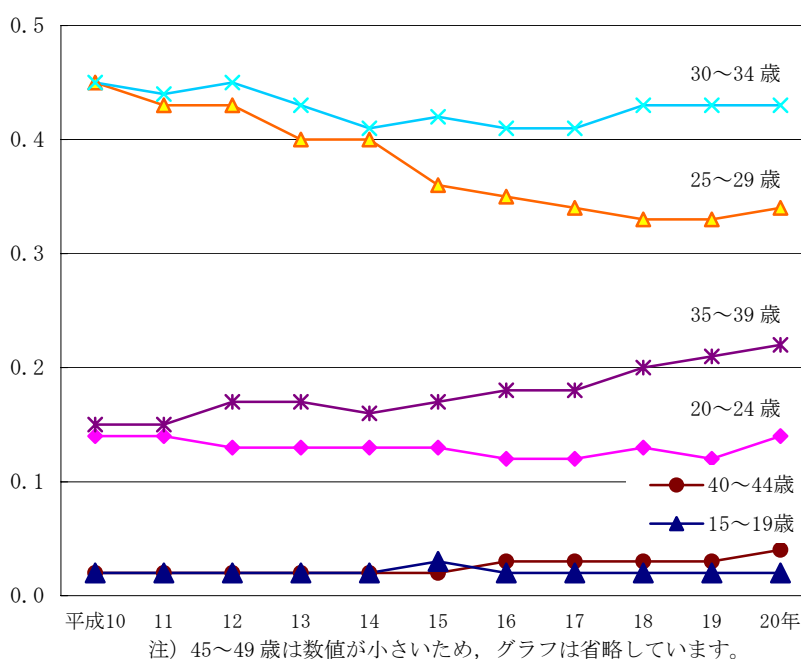
2 母の年齢(5歳階級)別合計特殊出生率

合計特殊出生率を、母の年齢(5歳階級)別に前年に比べると、45歳から49歳を除くすべての年齢階級で上昇しています。

このうち、10歳代では、横ばい傾向が続いていますが、20歳代では、低下傾向にありましたが、6年ぶりに上昇に転じました。30歳代では、3年連続で上昇しています。特に、35歳から39歳では、女性人口と出生数が共に増加し、出生率は6年連続で増加しています。出生数の最も多い30歳から34歳では、出生数は減少しているものの、同世代の女性人口の減少率が大きいため、出生率はわずかに上昇しました。40歳から44歳では、ゆるやかな上昇傾向にあります。

また、平成9年以降、12年連続で、30歳から34歳までの出生率が最も高くなっています。一方、平成8年に最も高かった25歳から29歳までの出生率は低下傾向にあります。(図-1、次ページ表-2参照)

図-1 母の年齢(5歳階級)別合計特殊出生率の推移



注)45~49歳は数値が小さいため、グラフは省略しています。

表－２ 母の年齢（５歳階級）別合計特殊出生率の推移

年齢階級	平成 10 年	平成 11 年	平成 12 年	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年
合 計	1.23	1.20	1.21	1.16	1.15	1.14	1.12	1.11	1.14	1.14	1.19
15～19 歳	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
20～24 歳	0.14	0.14	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12	0.12	0.13	0.12	0.14
25～29 歳	0.45	0.43	0.43	0.40	0.40	0.36	0.35	0.34	0.33	0.33	0.34
30～34 歳	0.45	0.44	0.45	0.43	0.41	0.42	0.41	0.41	0.43	0.43	0.43
35～39 歳	0.15	0.15	0.17	0.17	0.16	0.17	0.18	0.18	0.20	0.21	0.22
40～44 歳	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04
45～49 歳	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

3 行政区別合計特殊出生率

合計特殊出生率を行政区別にみると、最も高いのは7年連続して南区で1.48、次いで西京区の1.34、伏見区の1.31の順となっています。一方、最も低いのは東山区で0.69、次いで中京区の0.98、上京区の0.99の順となっています。また、京都市の1.19を上回る行政区は、山科区、南区、右京区、西京区、伏見区の5行政区となっており、周辺区で高くなっています。

前年と比べると、上京区で0.15ポイント、南区で0.12ポイント、西京区で0.10ポイント上昇したのをはじめ、東山区を除く10行政区で上昇しています。

表－３ 行政区別の合計特殊出生率

	市計	北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	西京	伏見
合計特殊出生率												
平成 11 年	1.20	1.08	0.82	1.03	0.97	0.77	1.25	1.00	1.46	1.14	1.46	1.42
12 年	1.21	1.03	0.87	1.08	1.00	0.81	1.35	1.03	1.40	1.29	1.37	1.36
13 年	1.16	1.06	0.90	1.01	0.93	0.78	1.21	0.93	1.34	1.17	1.33	1.37
14 年	1.15	1.04	0.87	1.02	0.96	0.72	1.21	1.06	1.37	1.21	1.35	1.28
15 年	1.14	1.02	0.83	1.01	0.92	0.73	1.22	1.03	1.39	1.18	1.26	1.29
16 年	1.12	1.03	0.89	0.98	0.84	0.66	1.24	1.00	1.32	1.17	1.25	1.25
17 年	1.11	1.05	0.90	1.01	0.93	0.69	1.15	0.95	1.38	1.18	1.25	1.23
18 年	1.14	1.10	0.90	1.04	0.87	0.79	1.20	1.05	1.33	1.19	1.28	1.28
19 年	1.14	1.13	0.84	1.07	0.92	0.84	1.22	0.99	1.36	1.18	1.24	1.26
20 年	1.19	1.15	0.99	1.11	0.98	0.69	1.24	1.00	1.48	1.23	1.34	1.31
15～19 歳	0.02	0.01	0.01	0.00	0.00	0.03	0.03	0.03	0.05	0.02	0.02	0.04
20～24 歳	0.14	0.10	0.05	0.07	0.06	0.08	0.19	0.10	0.21	0.13	0.16	0.21
25～29 歳	0.34	0.34	0.24	0.28	0.24	0.11	0.39	0.25	0.42	0.38	0.40	0.39
30～34 歳	0.43	0.46	0.41	0.46	0.40	0.28	0.38	0.34	0.46	0.47	0.50	0.43
35～39 歳	0.22	0.21	0.23	0.25	0.21	0.14	0.20	0.22	0.29	0.20	0.24	0.20
40～44 歳	0.04	0.03	0.05	0.04	0.06	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.04
45～49 歳	0.00	—	0.00	0.00	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—	0.00
母の年齢（５歳階級）別出生数（人）												
平成 20 年	11,789	828	539	1,160	805	169	1,131	625	939	1,626	1,489	2,478
15～19 歳	145	3	2	2	1	5	19	7	22	21	12	51
20～24 歳	1,154	62	25	70	39	21	147	56	116	145	141	332
25～29 歳	3,122	214	130	266	202	30	328	180	260	451	389	672
30～34 歳	4,566	343	225	499	340	69	385	227	313	664	598	903
35～39 歳	2,435	181	130	283	181	35	214	134	205	306	320	446
40～44 歳	359	25	26	38	41	9	37	20	23	39	29	72
45～49 歳	8	—	1	2	1	—	1	1	—	—	—	2

注) 平成20年の出生数は50歳以上の2人を45歳から49歳に含んでいます。

4 全国及び京都府との合計特殊出生率の比較

平成20年の全国の合計特殊出生率は1.37、京都府の合計特殊出生率は1.22となっています。前年と比べると、全国は0.03ポイント、京都府は0.04ポイント、それぞれ上昇しています。

京都市の合計特殊出生率1.19と比べると、全国では0.18ポイント、京都府では0.03ポイント、それぞれ京都市が低くなっていますが、いずれも前年よりも差が縮まりました。

表-4 京都市、京都府、全国の合計特殊出生率の推移

年次	出生数(人) a)			合計特殊出生率 b)		
	京都市 c)	京都府	全国	京都市 c)	京都府	全国
昭和45年	25,240	41,235	1,934,239	1.91	2.02	2.13
50年	22,457	39,921	1,901,440	1.66	1.81	1.91
55年	17,619	32,139	1,576,889	1.54	1.67	1.75
60年	15,643	28,479	1,431,577	1.55	1.68	1.76
平成元年	13,590	24,855	1,246,802	1.41	1.46	1.57
2年	13,386	24,209	1,221,585	1.38	1.48	1.54
3年	12,945	23,487	1,223,245	1.34	1.39	1.53
4年	13,113	23,838	1,208,989	1.34	1.38	1.50
5年	12,611	23,082	1,188,282	1.27	1.32	1.46
6年	13,352	24,245	1,238,328	1.33	1.37	1.50
7年	12,673	23,219	1,187,064	1.25	1.33	1.42
8年	13,204	24,023	1,206,555	1.27	1.30	1.43
9年	12,946	23,595	1,191,665	1.23	1.26	1.39
10年	13,144	24,312	1,203,147	1.23	1.26	1.38
11年	12,868	23,831	1,177,669	1.20	1.22	1.34
12年	13,002	23,997	1,190,547	1.21	1.28	1.36
13年	12,513	23,364	1,170,662	1.16	1.20	1.33
14年	12,386	22,859	1,153,855	1.15	1.17	1.32
15年	12,072	22,371	1,123,610	1.14	1.15	1.29
16年	11,764	22,066	1,110,721	1.12	1.14	1.29
17年	11,612	21,560	1,062,530	1.11	1.18	1.26
18年	11,845	22,100	1,092,674	1.14	1.19	1.32
19年	11,534	21,597	1,089,818	1.14	1.18	1.34
20年	11,789	21,842	1,091,156	1.19	1.22	1.37

a) 出生数は厚生労働省「人口動態統計」によります。

b) 算出に用いる女性人口について、京都市は住民基本台帳人口の女性人口（昭和60年以前は国勢調査による日本人女性人口）を、京都府及び全国は国勢調査実施年は国勢調査による日本人女性人口、その他の年は京都府が推計人口による女性人口、全国は推計人口による日本人女性人口を使用しています。

c) 京都市の出生数には、平成17年3月までの京北町分を含みません。また、合計特殊出生率は、当時の市域で算出しています。

参考

1 「期間合計特殊出生率」と「コーホート合計特殊出生率」について

「期間合計特殊出生率」は、ある期間（1年間）の出生状況に着目して、その年における各年齢（15歳から49歳まで）の女性の出生率を合計したものです。

「コーホート合計特殊出生率」は、ある世代の出生状況に着目して、同一年生まれ（コーホート）の女性の各年齢（15歳から49歳まで）の出生率を積み上げたもので、「一人の女性が一生の間に生む子どもの数」を意味する出生率です。ただし、この出生率はその世代が50歳になるまで得られないため、通常、年次比較、国際比較、地域比較に用いられている合計特殊出生率は、「期間合計特殊出生率」により算出されています。

2 京都市の合計特殊出生率の算出方法

年齢（5歳階級）ごとに母の年齢別出生数を住民基本台帳による年齢別女性人口で除したものを5倍にした数値を足し上げています。合計特殊出生率は、年齢（各歳）ごとの出生率を足し上げる仕組みであることから、5歳階級で計算する場合は当該年齢階級の平均値を5倍しています。